

## 「国家試験問題作成の手引き」

## I 出題に関する留意事項 (厚生労働省より)

1. 出題の範囲は「保健師助産師看護師国家試験出題基準(平成15年版)に準拠してください
2. 問題作成にあたっては、保健師助産師看護師の資質として、看護師等の基礎教育が終了した時点で求められる基本的な知識、技能を見ることができるといえるような問題、さらに状況判断に基づいた看護の実践ができる総合能力を客観的に評価できるような問題を心がけてください
3. 臨床の場においてよく見られるニーズの高い題材を重視して下さい。また、単純な知識や記憶再生を要求するのではなく、問題解決能力を問う問題の出題を心がけて下さい。
4. 学内試験等に出題した既出問題および新規に作成した問題などを提供して下さい

## II 試験問題作成の手引き

試験問題は、一般問題と状況設定問題別に作成し、お送り下さい。各試験問題の構成は、枠内に示したモデル例のように記入をお願いします。

### 1. 試験問題の構成

#### 1) 一般問題のモデル

＜一般問題＞	←①問題の種類
基礎看護学—2—2—D	←②(領域—目標—大項目—中項目)
問1	←③問題番号 (問題番号は、各校または教員ごとに通し番号をつける)
仙骨部にできた褥創ケアで適切なのはどれか。	←④問題文
1. 円座の使用	} ←⑤選択肢
2. 発赤部のマッサージ	
3. 褥創部の日光消毒	
4. 体圧分散寝具の使用	
解説 ←⑥解説	⑦各選択肢の正誤
	⑧各選択肢の解説
1. ×	円座の使用は、褥創発生前には有効な場合があるが、褥創発生後は、円座の接触部位に圧迫を生じさせるだけでなく、発赤部位の血液循環をさらに阻害することになるため、使用しない。
2. ×	発赤部に対しては、マッサージなど皮膚の摩擦やズレを生じさせるような皮膚への負荷は行わない。除圧を行い圧迫部位の皮膚の保護を行う。
3. ×	創傷治癒過程で創部を乾燥させると、痂皮が形成され、創の収縮・上皮化が阻害されるので、適度な湿潤環境を維持するのが望ましい。日光消毒のように、創部を乾燥させる可能性があることは避ける。
4. ○	体圧分散寝具は、通常の寝具より体圧を低く維持する機能があり、除圧効果が期待できる。しかし、除圧効果の高いエアマットレスなどを使用した場合でも体位変換は省略しない。
解答 [4]	←⑨正答番号

2) 状況設定問題のモデル

＜状況設定問題＞ ←①問題の種類

老年看護学—2—4—G ←②(領域—目標—大項目—中項目)

次の文を読み、【問1】【問2】【問3】に答えよ ←③問題番号(問題番号は、各校または教員ごとに通し番号をつける)

76歳の男性。3年前にアルツハイマー型痴呆と診断された。最近になって、鍵や現金の置き場所を忘れて泥棒が入ったという訴えや、妻がいないときに1人で外出し帰宅できずに警察に保護されることが頻繁になった。そのため精神科に入院した。入院してからも昼食直後に「食事を食べていない」と訴える。また、盛夏であるにもかかわらず季節を尋ねると「冬」という。

④全体の状況設定文

【問1】この男性に認められる精神症状はどれか。

←⑤問題文

- a. 記銘力障害
- b. 行為障害
- c. 感情障害
- d. 見当識障害

←⑥選択肢

1. a. b    2. a. d    3. b. c    4. c. d    ←⑥選択肢(定型)

←⑤問題文

【問2】今日も昼食直後「食事を食べていない」と言ってきた対応として適切なものはどれか。

- 1. 「今、昼食でカレーとサラダを食べたところですよ」
- 2. 「では、おやつを準備をします」
- 3. 「昼食の用意ができるまでお話をしましょう」
- 4. 「昼食は食べ終わりましたが、お忘れですか」

←⑥選択肢

【問3】入院2週間後、夜間の徘徊が始まった。対応として適切なものはどれか。

←⑤問題文

- 1. 「夜だから休んでください」と臥床を促す。
- 2. 「客間に行きましょう」と個室に誘導して施錠する。
- 3. 「夜歩くのは他の人の迷惑になります」と帰宅を促す。
- 4. しばらく一緒に歩き「着きましたよ」と臥床を促す。

←⑥選択肢

解説 ←⑦解説

【問1】 ←⑧解説問題番号

⑨各選択肢の正誤

←⑩各選択肢の解説

- a. ○ 鍵やお金の置き場所を忘れる、食事をしたことを・・・
- b. × ……
- c. × ……
- d. ○ ……

【問2】 ←⑧解説問題番号

⑨各選択肢の正誤

解答 [2] ←⑪正答番号

←⑩各選択肢の解説

- 1. × この男性は、食事をした記憶がないので・・・
- 2. × ……
- 3. ○ ……
- 4. × ……

解答 [3] ←⑪正答番号

【問3】以下同じ形式で！

## 2. 試験問題の作成にあたっての留意事項

### 1) 問題

#### (1) 文字数

- ①一般問題・・・原則 40 字以内
- ②状況設定問題・・・状況設定問題（1 事例 3 問）は、全体の状況設定問題文を提示した後に 3 問を出題するが、2 問目あるいは 3 問目の問題にできるだけ（最初の状況設定文の）その後の設定を追加する
  - ・全体の状況設定問題文は、200 字以内
  - ・各問題の問題文は、原則 25 字以内
  - ・各問題の追加設定文は、120 字以内

#### (2) 問題文の形式

以下の 4 パターンのいずれかの形式をとる（できるだけ②を避け、③④の形式とする）

- ①「～正しいのはどれか」「～適切なのはどれか」
- ②「～誤っているのはどれか」「～適切でないのはどれか」
- ③「～優先度が高い（低い）のはどれか」「～最も～なのはどれか」
- ④「～該当しないのはどれか」「～なのはどこか」「～可能性の低いのはどれか」

#### (3) 選択肢

- ①1 つの問題について選択肢は 4 つである
- ②1 つの選択肢の文字数は、原則 25 字以内とし、できるだけ短文、もしくは単語とする
- ③組み合わせ問題の場合、各選択肢の組み合わせの右側を文章としない
- ④abcd 問題の場合、選択肢 a,b,c,d の下に以下の 1～4 の選択肢を入れる（これは国家試験の定型のためこの通りに表記する）

1. a. b    2. a. d    3. b. c    4. c. d

### 2) 解説

#### (1) 選択肢の正誤および解説

- ①各選択肢の正誤を○×で示す。（誤った選択肢を選ばせる問題の場合、×の選択肢が 1 つ、○の選択肢が 3 つになる）
- ②解説は、原則 1～4 の選択肢ごとに必要である
- ③文字数は、1 解説につき原則 80 字以内とする
- ④内容は、各選択肢がなぜ○なのか、×なのかという根拠を明示する

#### (2) 正答番号

正しい選択肢を問うものは○の選択肢、誤った選択肢を問うものは×の選択肢が正答となる

### 3. 試験問題作成の書式

- 1) 原則としてコンピュータ（ワードプロセッサ）を用い、A4（縦書き）用紙として使用する
- 2) 書式は、1 行 40 字（10.5 ポイント）、句読点は「、」「。」、書体は「MS 明朝」とする

### Ⅲ. 問題のフォーマット

#### 1. 一般問題のフォーマット

青字部分を削除してご記入下さい。

##### (1) a b c d 問題以外の形式

<一般問題>

基礎看護学-2-2-D

問1 問題文をお書き下さい

1. 選択肢内容をお書き下さい
2. 選択肢内容をお書き下さい
3. 選択肢内容をお書き下さい
4. 選択肢内容をお書き下さい

解説

1. × 選択肢の解説をお書き下さい
2. × 選択肢の解説をお書き下さい
3. × 選択肢の解説をお書き下さい
4. ○ 選択肢の解説をお書き下さい

解答 [ ]

##### (2) a b c d 問題の形式

<一般問題>

基礎看護学-2-2-D

問1 問題文をお書き下さい

- a. 選択肢内容をお書き下さい
- b. 選択肢内容をお書き下さい
- c. 選択肢内容をお書き下さい
- d. 選択肢内容をお書き下さい

1. a.b    2. a.d    3. b.c    4. c.d

解説

- a. × 選択肢の解説をお書き下さい
- b. × 選択肢の解説をお書き下さい
- c. × 選択肢の解説をお書き下さい
- d. ○ 選択肢の解説をお書き下さい

解答 [ ]



## 2. 状況設定問題のフォーマット

青字部分は、削除してご記入下さい。  
abcd 問題を作成される場合は、モデルの  
【問1】の形式に変更し、ご記入下さい

<状況設定問題>

老年看護学—2—4—G

次の文を読み、【問1】【問2】【問3】に答えよ

全体の状況設定文をお書き下さい（200字以内）

【問1】問題文（25字以内）あるいは問題の追加設定文（120字以内）をお書き下さい。

1. 選択肢内容をお書き下さい
- 2.
- 3.
- 4.

【問2】問題文（25字以内）あるいは問題の追加設定文（120字以内）をお書き下さい。

1. 選択肢内容をお書き下さい
- 2.
- 3.
- 4.

【問3】問題文（25字以内）あるいは問題の追加設定文（120字以内）をお書き下さい。

1. 選択肢内容をお書き下さい
- 2.
- 3.
- 4.

解説

【問1】

1. × 選択肢の解説をお書き下さい
2. ×
3. ○
4. ×

解答 [ ]

【問2】

1. × 選択肢の解説をお書き下さい
2. ×
3. ○
4. ×

解答 [ ]

【問3】

1. × 選択肢の解説をお書き下さい
2. ×
3. ○
4. ×

解答 [ ]

表 1. 保健師助産師看護師国家試験公募問題作成マニュアルに記載されている  
「問題作成の一般的留意事項」「状況設定問題に関する留意事項」の抜粋

### 1 題材の選定

- ①細やかな専門的知識を要求する問題を避け、特に医学的な内容に偏りすぎないこと。
- ②日常の看護においてよくみられる疾病や事例を中心とし、発生頻度の少ない疾病や非常にまれな事例を取り上げるのは適当ではない。
- ③出題があまりにも特定の領域に偏らないようにする。
- ④実習を通して得られる能力が評価できる内容を含める。
- ⑤法律の施行年を問う問題は、業務上で重要な意味をもつものに限る。新しい法律について出題する時は、教育の浸透状況を把握した上で作成する。
- ⑥人名を付した現象、検査、呼称などを用いる場合は、必ず知っておかなければならないものとする。
- ⑦数値を尋ねる場合は、業務上、常に記憶しておかなければならないものとする。
- ⑧学者により意見の分かれている現象、概念および理論等を用いないようにする。
- ⑨薬品名を用いる場合は、商品名は使わない。また新薬を取り上げる場合は、教育の浸透状況を把握した上で作成する。
- ⑩図、表、グラフを用いる場合は、年代、出典を明らかにする。

### 2 問題の難易度

- ①保健師助産師看護師の資質として、看護師等の基礎教育が終了した時点で求められる基本的な知識、技術のみをみることができるよう問題、さらに状況判断に基づいた看護の実践ができる総合能力を客観的に評価できるような問題を作成する。
- ②すべての保健師助産師看護師学校養成所で教育が行われているであろう標準的な教育内容から出題する。

### 3 表現、用語

- ①用語はすべての受験者に同じように解釈されるものであること。法律用語は、法律の条文を確認し、正確な呼称で使用する。
- ②漢字は原則として常用漢字を使用する。
- ③仮名づかいは現代仮名づかいを使用する。
- ④カタカナについては、通常の教育場で一般的に用いられているかを確認して使用する。
- ⑤難解あるいは特異な用語や保健師助産師看護師国家試験出題基準にない略語については、英語または原語による括弧書きをつけること。
- ⑥人名は原則としてカタカナで「C. ロイ」のように表記し、一般に定着していないものについては、括弧書きで原語をつける。
- ⑦表現は明確かつ簡素にする。問題を解く上で必要にして十分な内容であること。難解な表現、不必要な文学的な表現は避ける。
- ⑧まぎらわしい、曖昧な表現は避ける。(例) 特に、きわめて、しばしば、ほぼ、大体、頻回

- ⑨「必ず」「すべて」等の限定語は使わないこと。
- ⑩「〇〇〇ことがある」という表現は否定できないことが多いので使わないこと。
- ⑪ヒントになるような節、句を含まない。
- ⑫薬品名については「～薬」という記載にする。外用薬については「～剤」という表現を用いてもよい。
- ⑬動植物名は原則としてカタカナにすること。
- ⑭数字の記載は千の単位でコンマを入れる。

(例) 10,000

分数については例示のとおりとする。

(例)  $1/10$       $\frac{1}{10}$

- ⑮年齢別呼称については原則として

4週未満：新生児    4週～1歳未満：乳児    1～12歳：男児    女児    13～18歳：男子    女子

19歳以上：男性    女性    とすること。

#### 4 設問文

- ①設問文に否定形を使う時には、アンダーラインを付すこと。

(例) 誤っている    適切でない    規程されていない    治療薬でない

#### 5 選択肢

- ①選択肢は四肢択一とする。
- ②誤答肢は、明らかに誤りであるとわかるもの（ナンセンス肢）ではなく、もっともらしいものとする。無意味な選択肢は、実質的に選択肢を少なくしてしまうことになる。Kタイプでは特に注意すること。
- ③受験生の20%程度が選択してしまうような誤答肢（魅惑肢）を作ることが望ましい。受験生が直感的に排除してしまうような常識的な間違い肢はできるだけ作成しないこと。
- ④設問が否定形の場合は、選択肢を否定形にしない（二重否定を避ける）。
- ⑤選択肢は、すべて対等の重みを持ち、同一範疇の事象であることが望ましい。
- ⑥各選択肢の長さはおおむね等しく、単語もしくは短文にすること。
- ⑦選択肢の配列には順序性や論理性を考慮すること。
- ⑧1つの選択肢に2つ以上の内容を含まないこと。
- ⑨1つの肢を否定すれば他の肢も否定できるような同じ肢の内容を含まない。特にKタイプでは注意すること。
- ⑩二律背反の関係にあり、1つの肢がわかると他の肢が誤りの肢としての役割を果たさなくなるような選択肢は避ける。Kタイプでは特に注意すること。

#### 6 解答時間

- ①一般問題についての解答時間の目安は、保健師助産師看護師ともに1分とし、状況設定問題についての解答時間の目安は2分として、定められた時間内に解答できるような問題を作成することが望ましい。ただし、一般問題の短い状況設定を付した問題については1問1分30秒程度とする。

#### 7 出典

- ①問題作成、問題の選定にあたっては、必ず使用した文献等の出典を明らかにする。



## 状況設定問題作成に関する留意事項

状況設定問題とは、単純な知識や記憶再生を要求するのではなく、ある状況や条件を含んだ場面を提示し、備えている知識と技能を動員させ、また分析や判断、推論を加えてその問題状況に則した解答を考えさせる問題形式をいう。よって、解釈や問題解決のための能力（タクソノミー<sup>1)</sup> III型）を問う問題が出題されることになる。状況設定問題も多肢選択式問題を採用していることから、基本的な留意事項については、すべて前述のとおりであるが、状況設定の具体的な問題作成にあたっては次の点に留意する。

### 1 状況について

- ①はじめに提示する状況は必要最低限の内容とし、10行程度（約300字程度）とする。
- ②いく通りもの解釈ができる表現は避ける。

### 2 事例の書き方について

- ①年齢、性別の順で書く（○歳の○性）。
- ②検査結果は指数、単位を明記する。
- ③文章は文語体、カルテ調の表現は避け、平易な書き方とする。また、名詞で句点とすることなく、動詞で句点の終文とする。
  - ×尿意あるも、排尿なし。
  - 尿意を訴えたが、排尿はなかった。
  - ×腹部膨満にて、救急入院。
  - 腹部膨満が認められたため救急入院した。
- ④事例がなくても答えられるような一般的、抽象的な知識を問う問題は適切ではない。また、各問題に追加した状況がある場合は、全体の流れを十分にふまえていること。
- ⑤状況設定問題は、看護判断（診断）を行う根拠や関連因子が問題文に盛り込まれ、その問題解決を行うために必要な対象の特徴的な年齢、性別、疾患名、心理・社会的要因が明確に示されること。

<sup>1)</sup>：タクソノミーとタキソノミーは同一語（筆者注）

出典 村瀬千春、川本利恵子（2007）「試験問題作成の視点」の検討プロセス。看護研究 40(2)：14・15。

表2. タクソノミーレベル

taxonomy I型 第1レベル (想起型)	「Xは何か」を問う。受験者がすでに記憶・認識している個々の知識 (事実、概念、理論、方法) の想起を要求する。知識を記憶していれば解答可能であるため、認知領域目標としては低次レベル。
taxonomy II型 第2レベル (解釈型)	「Xをどう解釈するか、判断するか、Xであるということの認識が可能であったら、Yはどうか」を問う。受験者に事象やデータを示し、その事象やデータを解釈した結果を要求する。理解のレベル。
taxonomy III型 第3レベル (問題解決と評価型)	「この状況からどのように判断し、どのような方法を行うか」を問う。受験者に特定状況解決のための知識の活用、分析、応用を行わせ、その結果をもとに評価を要求する。状況設定問題といわれる。高次の知的レベル。

日本医学教育学会監 (1984)。医学教育マニュアル4をもとに作成  
 出典 川本利恵子 (2007) 国家試験と客観試験における評価の考え方。看護研究 40(2): 6.

表3. 客観試験問題の種類と特徴 (看護師国家試験を想定)

種類	特徴	思考の流れ
I型 (単純想起型)	1. 暗記した事項を想起すれば (思い出せば) 解答できる。 2. 基本的な知識の有無を問う。	設問→知識の想起→解答
I <sup>~</sup> 型 (推定型)	1. 看護基礎教育で学んだ基本的事項・常識に基づいて推定すれば解答できる。 2. 標準的な看護計画、看護師としての姿勢や態度、常識を問う。	設問→基本的事項・常識→推定→解答
II型 (解釈型)	1. 設問文で示された情報の意味を理解・解釈、状況を判断して解答する。 2. 理解・解釈という思考過程は1回である	設問 (データや状況などの情報) → 理解・解釈→解答
III型 (問題解決型)	1. 知識の応用、複数のデータや状況の分析結果を統合し、意味ある全体にまとめあげる能力を要求する問題で、具体的な問題解決能力を求める。 2. 理解・解釈の思考過程を2回以上踏まないとは解答できない	設問 (データや状況) →理解・解釈 → 分析判断 → 解答 ↑ 解答選択肢→理解・解釈→問題解決

出典 村瀬千春, 川本利恵子 (2007) 「試験問題作成の視点」の検討プロセス。看護研究 40(2): 12.

表4. 「チェックリスト：問題作成の視点」

問題 NO \_\_\_\_\_

- ・問題作成日： 年 月 日 作成者： \_\_\_\_\_
- ・科目（領域）（ \_\_\_\_\_ ）
- ・出題範囲（ \_\_\_\_\_ ）例）国家試験出題基準の目標—大項目—注項目（目標2—3—A）
- ・問題の種類（必修問題・一般問題・状況設定問題）
- ・解答形式（Aタイプ・Kタイプ）

1. 題材の選択について

①範囲とレベルは目標に準じているか（出題基準で確認すること）。	
②すべての教育機関で教育されているであろう標準的な教科内容から出されているか（教科書で確認すること）。	
③基本的な重要事項（日常の看護においてよく見られる疾病や事例）を扱っているか。	

2. 問題の難易度について

①難易度は適切（教科書に書かれている程度）であるか。	
②基礎教育修了時の基本的知識を評価できるような問題、状況判断に基づいた看護実践のための総合能力を評価できる問題であるか。	
③解答時間の目安は、一般問題は1問1分、短い状況設定を付した一般問題は1問1分30秒程度、状況設定問題は2分として、時間内に解答できるような問題であるか。	

3. タクソノミーの設定について

①設定したタクソノミーは何か（I型、I <sup>+</sup> 型、II型、III型）。	
②タクソノミーの適切性はどうか。	

4. 多肢選択形式テストについて

1) 全体	
①単一の主題について設問しているか。	
②設問文と選択肢との整合性（一貫性）はあるか。	
③選択肢すべてが単純真偽形式（○×形式）問題ではないか。	
2) 設問文	
①文法的に完結された文章で、何を聞いているか明らかであるか。	
3) 選択肢	
①選択肢はすべて対等の重みをもち、同一範疇の事象であるか。	
②正解肢以外の選択肢も、一見もっともにみえるか。	
③二律背反の関係にあり、1つの肢がわかると他の肢が誤りの肢としての役割を果たさなくなるような選択肢は避けているか。	
④1つの選択肢に2つ以上の内容が含まれていないか。	
⑤選択肢で共通している語句が設問文にまとめられているか。	
⑥選択肢は単語もしくは短文になっているか。	
⑦選択肢の配列には順序性や論理性を考慮しているか。	
⑧各選択肢の長さはおおむね等しくなっているか。	

## 5. 形式、表現・用語について

### 1) 設問文

①文末表現は適切か。(例)～はどれか。

②設問文に否定形を使う時には、アンダーラインを付しているか。

(例) 誤っている 適切でない 規程されていない 治療薬でない

### 2) 選択肢

①解答形式がKタイプの場合、適切な解答コードであるか(1. a. b 2. a. d 3. b. c 4. c. d)。

②用語はすべての受験者に同じように解釈されるものであるか。

③表現は明確かつ簡潔であるか(問題を解く上で必要にして十分な内容であること。難解な表現、不必要な表現は避ける)。

④まぎらわしい、曖昧な表現でないか。

(例) きわめて、しばしば、ほぼ、大体、頻回、できるだけ、～してもよい、～ことがある など。

(例) 高い、低い など程度を示す表現は、比較対象が必要。

⑤「必ず」「すべて」などの限定語は使われていないか。

⑥ヒントとなるような節、句が含まれていないか。

⑦難解あるいは特異な用語や出題基準にない略語については、英語または原語による括弧書きをつけているか。

⑧引っかけの文章を用いていないか。

⑨設問文が否定形の場合は、選択肢を否定形にしているか(二重否定を避ける)。

⑩指示された国家試験での用語表現を用いているか。

・ カウント、バイタルサイン、検査データ、その他(略語は使用しない、年号の表し方、「検診」と「健診」、「がん」と「癌」の使用法、年齢別呼称)は、作成マニュアルの表記例で確認する。

・ 薬品名については「～薬(剤)」という記載になっているか、また、商品名が使われていないか(商品名は使用できない)。

## 6. 状況設定問題について

### 1) 問題文(状況)

①問題文は必要最低限の内容とし、10行程度(約300字)になっているか。

②文章は、文語体、カルテ調の表現は避け、平易な書き方になっているか(名詞で句点とすることなく、動詞で句点の終文とする)。

③提示された情報は、必要にして十分な内容であるか(余分な情報はないか)。

### 2) 問題

①1問1問、独立した問題になっているか。

②事例がなくても答えられるような一般的、抽象的な知識を問う問題になっていないか。

出典 川本利恵子、村瀬千春他(2007) 験問題ブラッシュアップの例、看護研究 40(2):29-30.

表5. ブラッシュアップシート

問題 No \_\_\_\_\_

年 月 日

氏名

[必修問題・一般問題・状況設定問題]

1. 正解番号

2. 作成問題の不適切な点 (チェックリストで確認された不適切な点を列記する)

3. 修正問題

出典 川本利恵子, 村瀬千春他 (2007) 験問題ブラッシュアップの例. 看護研究 40(2): 30.



表6. ブラッシュアップシート (例)

問題例1

2006年12月〇日

氏名：〇〇〇〇

[必修問題・~~一般問題~~・状況設定問題]

問題例1 正しいのはどれか。

1. 看護記録は診療録のように医療過誤訴訟の証拠書類にならない。
2. 看護記録は患者の退院後、3年間保存する義務がある。
3. 看護記録の管理は、保健師助産師看護師法で規定されている。
4. 看護記録は、事実に基づいた内容が求められる。

1. 正解番号：4

2. 作成問題の不適切な点 (チェックリストで確認された不適切な点を列記する)

- ①すべての選択肢に「看護記録」という共通用語があるので、設問文にまとめる必要がある。

3. 修正問題

問 看護記録について正しいのはどれか。

1. 医療過誤訴訟の証拠書類にならない。
2. 患者の退院後、3年間保存する義務がある。
3. 保健師助産師看護師法で規定されている。
4. 事実に基づいた内容が求められる。

出典 川本利恵子, 村瀬千春他 (2007) 験問題ブラッシュアップの例. 看護研究 40(2): 31.

問題例2

2006年12月×日

氏名：〇〇〇〇

[必修問題・~~一般問題~~・状況設定問題]

問題例2 注射・採血時の皮膚消毒として誤っていないのはどれか。

1. 70%エタノールを使用する。
2. 同じ部位なら1つの消毒綿を何度使用してもよい。
3. 消毒前の手洗いの必要性は低い。
4. 消毒綿で拭いたらできるだけ早く穿刺する。

1. 正解番号：1

2. 作成問題の不適切な点 (チェックリストで確認された不適切な点を列記する)

- ①設問文の表現「誤っていないものはどれか」は二重否定であり、混乱しやすいので表現を変更する。
- ②選択肢2の「してもよい」という表現は、本当は実施しないが、行っても悪くはないという意味にも取れる。まぎらわしいので不適切な表現である。
- ③選択肢3の「低い」という程度を示す表現は、曖昧な表現になるので、基準および比較する対象がないので使用しない。
- ④選択肢4の「できるだけ」という表現も、どれくらいの時間をいうのが曖昧である。したがって、使用しない。

### 3. 修正問題

問 注射・採血時の皮膚消毒として正しいのはどれか。

1. 70%エタノールを使用する。
2. 同じ部位なら1つの消毒綿を使用する。
3. 消毒前の看護師の手洗いは不要である。
4. 消毒綿で拭いたら直ちに穿刺する。

出典 川本利恵子, 村瀬千春他 (2007) 験問題ブラッシュアップの例. 看護研究 40(2): 32.

## 保健師教育の技術項目と卒業時の到達度

- 「個人/家族」：個人や家族を対象とした卒業時の到達度  
 「集団/地域」：集団(自治会の住民、要介護高齢者集団、管理職集団、小学校のクラス等)や地域(自治体、企業、学校等)の人々を対象とした卒業時の到達度  
 ■卒業時の到達度レベル：Ⅰ:ひとりで実施できる、Ⅱ:指導のもとで実施できる(指導保健師や教員の指導のもとで実施できる)、Ⅲ:学内演習で実施できる(事例等を用いて模擬的に計画を立てたり実施できる)、Ⅳ:知識としてわかる

大項目 (項目数)	中項目	技術の種類	卒業時の到達度	
			個人/家族	集団/地域
1. 地域の健康課題を明らかにする	A. 地域の人々の生活と健康を多角的・継続的にアセスメントする	1 身体的・精神的・社会文化的側面から客観的・主観的情報を収集し、アセスメントする	I	I
		2 社会資源について情報収集し、アセスメントする	I	I
		3 自然および生活環境(気候・公害等)について情報を収集し、アセスメントする	I	I
		4 健康課題を生活者である当事者の視点を踏まえてアセスメントする	I	II
		5 一時点だけではなく(観察や資料等による)経時的な情報を収集し、アセスメントする	I	I
	B. 地域の人々の顕在的、潜在的健康課題を見出す	6 顕在している健康課題を見出す	I	I
		7 健康課題を持ちながらそれを認識していない・表出しない・できない人々を見出す	II	III
		8 今後起こりうる健康課題や潜在している健康課題を予測する	I	III
		9 活用できる社会資源とその不足・利用上の問題を見出す	I	II
		10 地域の人々の持つ力(健康課題に気づき、解決・改善、健康増進する能力)を見出す	I	II
		11 健康課題について優先順位をつける	I	II
2. 地域の人々と協働して、健康課題を解決・改善し、健康増進能力を高める	A. 地域の人々の健康課題に対する支援を計画・立案する	12 目的・目標を設定する	I	II
		13 地域の人々に適した支援方法を選択する	I	II
		14 実施計画を立案する	I	II
		15 評価の項目・方法・時期について、評価計画を立案する	I	II
		16 地域の人々の生活と文化に配慮した活動を行う	I	II
	B. 地域の人々の健康課題を解決・改善し、健康増進能力を高めるための活動を展開する	17 地域の人々の持つ力を引きだすよう支援する	I	II
		18 地域の人々が意思決定できるよう支援する	II	II
		19 訪問・相談による支援を行う(集団を対象とした訪問・相談には、施設や事業所の訪問等を含む)	I	II
		20 健康教育による支援を行う	I	II
		21 地域組織・当事者グループ等を支援する		II
		22 活用できる社会資源、協働できる機関・人材について、情報提供をする	I	II
		23 支援目的に応じて社会資源を活用する	II	II
		24 当事者と関係職種・機関でチームを組織する	II	III
		25 個人/家族支援、組織的アプローチ等を組み合わせて活用する	II	
26 法律や条例等を踏まえて活動する	I	II		
27 危機状態(DV・虐待・災害・感染症等)への予防策を講じる	III	III		
28 危機状態(DV・虐待・災害・感染症等)に迅速に対応する	IV	IV		
29 目的に基づいて活動を記録する	I	I		



大項目 (項目 数)	中項目	技術の種類		卒業時の到達度		
				個人/家庭	実習/地域	
2. 地域の人々と協働して、健康課題を解決・改善し、健康増進能力を高める	C. 地域の健康課題に対する活動を評価・フォローアップする	30	活動の評価を行う	I	II	
		31	評価結果を活動にフィードバックする	I	II	
		32	継続した活動(含フォローアップ)が必要な対象を判断する	I	II	
		33	必要な対象に継続した活動(含フォローアップ)を行う	II	III	
	D. 地域の健康課題を解決・改善し、健康増進能力を高めるために、地域の人々・関係職者と協働する	34	地域の人々とコミュニケーションをとりながら信頼関係を築く	I	I	
		35	地域の人々と必要な情報を共有し共通の活動目的を見出す	I	III	
		36	地域の人々と互いの役割を認め合いともに活動する	II	III	
		37	関係職者・機関とコミュニケーションをとりながら信頼関係を築く	I	II	
		38	関係職者・機関と必要な情報を共有し共通の活動目的を見出す	II	III	
		39	関係職者・機関と互いの役割を認め合いともに活動する	II	III	
	3. 地域の人々の健康を保障するために、生活と健康に関する社会資源の公平な利用と分配を促進する	A. 地域の人々の健康にかかわる事業等を立案し、管理する(施策化)	40	施策(事業・制度等)の根拠となる法や条例等を理解する	I	
			41	施策化に必要な情報を収集する	II	
			42	施策化が必要である根拠について資料化する	II	
43			施策化の必要性を地域の人々や関係する部署・機関に根拠に基づいて説明する	III		
44			施策化のために、関係する部署・機関と協議・交渉する	IV		
45			地域の人々の特性・ニーズに基づく施策(事業等)を立案する	IV		
46			組織(行政・企業・学校等)の基本方針・基本計画との整合性を図りながら施策(事業等)を立案する	IV		
47			予算の仕組みを理解し、根拠に基づき予算案を作成する	IV		
48			施策(事業・制度等)の実施に向けて関係する部署・機関と協働し、活動内容と人材の調整(配置・確保等)を行う	IV		
49			施策や活動、事業の成果を公表し、説明する	IV		
50		保健医療福祉サービスが公平・円滑に提供されるよう継続的に評価・改善する	IV			
B. 地域の人々の生活と健康に関する社会資源の開発とその質を保証する		51	地域の人々の権利擁護のために個人情報適切に管理する	I		
		52	地域の人々の尊厳と権利・プライバシーをまもる	I		
		53	倫理的に検討・判断した上で実践する	I		
		54	生活環境(気候・公害等)の整備・改善について提案する	IV		
		55	地域の人々が組織や社会の変革に主体的に参画できるような機会と場、方法を提供する	IV		
		56	地域の人々や関係する部署・機関の間にネットワークを構築する	IV		
	57	広域的な健康危機(災害・感染症等)管理体制を整える	IV			
	58	必要な地域組織やサービスを資源として開発する	IV			
	59	効率・効果的に業務を行う	IV			
	60	研修の企画等を通して保健医療福祉サービスの質を高める	IV			
	61	社会情勢と地域の人々に応じた保健師活動の研究・開発を行う	IV			

### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表レイアウト

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
島田陽子	保健師助産師看護師国家試験問題の公募に関する概要	看護教育	Vol.49No.8	P.656-657	2008
川本利恵子	国家試験問題作成は教員に必要な能力の1つ - 検討のあゆみを振り返って -	看護教育	Vol.49No.8	P.658-662	2008
叶谷由佳 佐藤幸子 小林淳子 佐藤和佳子 (他9名)	卒業試験を国試モードに - 学科ぐるみの取り組みと教員にとっての意義 -	看護教育	Vol.49No.8	P.663-667	2008
島田陽子 川本利恵子 井上智子 栗本澄子	問題作成経験を積極的に - 国試問題プール制定着のためにできること -	看護教育	Vol.49No.8	P.668-672	2008

### Ⅳ. 研究成果の刊行物・別刷



# 保健師助産師看護師国家試験問題の 公募に関する概要

島田陽子 厚生労働省医政局看護課 課長補佐

## 保健師助産師看護師国家試験 問題への公募の導入の背景

保健師国家試験、助産師国家試験及び看護師国家試験(以下、「保健師助産師看護師国家試験」)は、それぞれ保健師、助産師又は看護師として必要な知識および技能を評価するためのものであり、医療・看護を取り巻く環境の変化に合わせ、定期的にその改善を行ってきている。

保健師助産師看護師国家試験への公募の導入については、2002(平成14)年3月29日にまとめられた保健師助産師看護師国家試験制度改善部会報告(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/10/dl/s1001-9f.pdf>)において、国家試験の度に「国家試験委員が問題を作成、修正する従来の問題作成方法では、試験問題の質や難易度を一定に保ち、かつ出題数を増やすことに対応することが難しい」ため、「出題する前に試験問題をあらかじめ蓄えておくこと(プール制)が有用」とされ、「全国の保健師助産師看護師学校養成所、実習施設、元国家試験委員、教育関係団体等に、試験問題の作成について協力を依頼するとともに、広く一般から試験問題を公募することが望ましい」とされている。

この報告を受け、2004(平成16)年1月に保健師助産師看護師国家試験問題の公募が開始された。

## 公募の現状と課題

試験問題の公募は、インターネットを介して行うことができる。公募システムのアドレスは、<http://www.newpass.jp>である。「NEWPASS」とは、「National Examination Web Public Appeal System」を略したもので、この後のプール制を背景・目的とし、広く試験問題を公募するシステムとして名付けられた。

システムにエントリーするためには、ログインパスワードとIDが必要であり、これらは、保健師助産師看護師学校養成所毎、職種毎に割り当てられている(図1~3)。パスワードとIDは、システム稼働開始時(2004年1月)に、各学校養成所に配布しているが、不明の場合は、厚生労働省医政局看護課(電話 03-3595-2206)までお問い合わせいただきたい。

試験問題の公募が始まってから4年以上が経過しているが、これまでに公募された問題数は極めて少ない状況である。2004年3月29日の保健師助産師看護師国家試験制度改善部会報告では、「今後数年のうちに、保健師助産師看護師とも数千題の問題をプールすることを目標として体制を整えることが望ましい」とされている。

今後、プール制を推進していくためには、まず良質な問題を相当数プールすることが必要であ

図1 ログイン画面

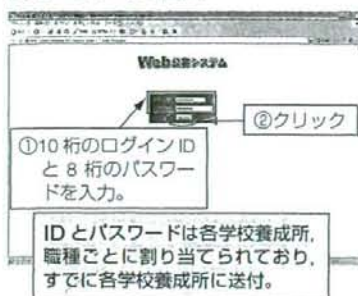


図2 利用規約



図3 公募登録ホーム



る。そのためには、試験問題の公募数が増大するような取り組みが早急に求められる。2008(平成20)年3月24日の保健師助産師看護師国家試験制度改善部会報告(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/03/s0324-8.html>)では、公募数を増やす方策として、「例えば、現行では看護系大学を含む看護師等学校養成所の看護教員に対して公募を依頼しているが、今後は、臨床現場に勤務する看護師等、看護教員以外の者からの公募も可能なシステムとすることや、職能団体や看護教育関係団体、看護関係学会等に一層の理解と協力が得られるように働きかけることが求められる。より具体的な推進方策として、何問程度のプール問題が必要かを提示し、看護師等学校養成所に公募数を割り当てるなどの方法も有効と考えられる」と提言している。

同報告では、「看護界全体で、より良い国家試験の実施、引いては看護職員全体の資質の向上に資するよう、国家試験の諸課題に関して継続的に議論していくことが必要である。そしてこれらの検討結果に基づき国家試験制度の改善に向けた提言を行うなど、看護界全体で自ら積極的に取り組んでいく機運を一層高めていくことが重要である」と提言している。

国家試験問題の難易度を安定させ、より良い国家試験が実施されるよう、看護界をあげた取り組みが一層活発に行われることが期待される。

島田陽子◎しまだようこ  
〒100-8916 千代田区霞が関1-2-2  
厚生労働省医政局看護課

## 公募の拡大に向けて

それでは、実際に試験問題の公募が進むためには、どうすればよいのか。同報告では、「看護基礎教育を担う看護教育界は国家試験の改善に関して必ずしも関心が高いとは言えない現状であるとの指摘がある」と述べているが、この背景には、国家試験問題を作成するというのが、どのように看護基礎教育に関係しているのか、十分に理解されていないことも一因ではないかと思われる。

### 訂正とお詫び

誌誌49巻6号の「教育課程構築のための科目校正の検討」原稿、488-489ページの表3におきまして、指定規則欄に単位と時間の双方を掲載しましたが、実際に指定規則で決まっているのは単位のみであり、総合計時間の「3000時間」を除いて他は空白が正しい表示です。なお、総合計時間も、正確には「3000時間以上」となります。

修正し、謹んでお詫び申し上げます。

「看護教育」編集部